

中村橋駅周辺まちづくり検討会 第2回全体会 議事要旨

[日 時]

令和5年5月11日（木）18時30分から20時00分まで

[会 場]

サンライフ練馬3階 研修室第一・第二

[出席者]

委員長 山本（学識経験者）

副委員長 伊東（美術館長）

委員 杉崎（学識経験者）、江村（商店会）、関口（商店会）、内田（商店会）

野島（町会）、今田（区民）、須藤（区民）、前田（区民）

小金井地域文化部長（区）、宮下都市整備部長（区）、生方産業経済部長（区）

オブザーバー 荻原（専門調査員）

[事務局]

美術館再整備まちづくり担当課 竹内、松本、中山、納谷

美術館再整備担当課 稲永、越智、倉片、渡邊、竹清、根岸

文化・生涯学習課 財賀

株式会社ユーマック(コンサルタント) 木南、中原

[傍聴者] 0名

[議事次第]

1. 開会

2. 議題

(1) 令和4年度 各部会の検討内容

① 駅周辺まちづくり部会

② 美術のまち部会

(2) 令和5年度のスケジュール（案）

(3) 美術館・貫井図書館改築等基本設計について

(4) 「アートを感じられるまち」についてのディスカッション

3. その他

[配布資料]

・ 検討委員一覧

・ 資料1 令和4年度 駅周辺まちづくり部会の検討内容

・ 資料2 令和4年度 美術のまち部会の検討内容

・ 資料3 【参考】今後策定する各構想の位置づけ

・ 資料4 令和5年度のスケジュール（案）

- ・資料5 美術館・貫井図書館改築等基本設計について
- ・資料6 「アートを感じられるまち」についてのディスカッション

1. 開会

- ・事務局、委員長、副委員長の挨拶を行った後、委員長を進行役として、プログラムに沿って議事を進めた。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・中村橋駅周辺まちづくり検討会全体会は、前年度の7月に第1回を行い、本日は第2回目である。 ・本日は、資料等の説明をした後、ディスカッションを行う予定であり、ご協力をお願いしたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「アート」の定義は様々であるが、人が気持ちよく心を動かされる作品、あるいは活動といえる。一方、「まちづくり」というのは、他人の土地に対して、皆のためになることを提案し、実現していくものである。 ・本日議論する「アートを感じられるまち」については、人により捉え方がずいぶん違うと思われ、それぞれ好みや意見が異なり「十人十色」である。この「十人十色」を、共同作業によりどのようにハーモニーとしていくのかが大事である。 ・本日は、具体的な議論による作業を行いたい。遠慮なく交流していただき、化学反応を起こして欲しい。皆のための「まちづくり」案を整理し、実現できる筋道を作っていきたいと思っている。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・前秋元美術館長の後任として、4月1日に美術館長に就任したばかりである。 ・前職は国際交流基金に30年間勤め、「アート」において人と人を繋ぐ取組みを行ってきた。その経験が「まちづくり」と相通じる部分があるといいなと思っている。精一杯努めるので、よろしくをお願いしたい。

2. 議題

(1) 令和4年度 各部会の検討内容

- ・事務局から資料1、資料2、資料3の説明。

事務局	<p>(主な説明内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度駅周辺まちづくり部会の検討では、まちづくりを考えていく上で考慮すべき中村橋の特徴や、今後の計画事業によるまちの変化を共有した。 ・美術のまち部会の検討では、「アートを感じられるまち」を目標としていくことを共有した。
-----	--

委員長	・昨年度の検討内容について、ご質問等あればご意見いただきたい。
委員	・練馬区の防災関係に関心がある。例えば、火災があった場合、中杉通りは道幅が狭く、消防車が入り難い状況である。本地区の防災に対する考え方について教えて欲しい。
事務局	・防災の観点については、駅周辺まちづくり部会で検討する内容と考えている。今後、駅周辺まちづくり部会で、当事項を上げていただき、皆さんと考えていきたい。

(2) 令和5年度のスケジュール(案)

- ・事務局から資料4の説明。

事務局	(主な説明内容) ・今年度(令和5年度)に、「美術のまち構想」の策定を予定している。
-----	---

(3) 美術館・貫井図書館改築等基本設計について

- ・事務局から資料5の説明。

事務局	(主な説明内容) ・設計受託者は、株式会社平田晃久建築設計事務所に決まった。 ・今年度は設計ワークショップを行いながら、12月に基本設計の完成を予定している。
委員長	・ワークショップを行いながら基本設計に反映する流れは、とても良いと思っている。こういう進め方が、一般的になってきたと感じている。

(4) 「アートを感じられるまち」についてのディスカッション

- ・3つのグループに分かれ、学識経験者やコンサルタントを進行役として、資料6の「アートを感じられるまち」についてのディスカッションを行った。
- ・30分間のディスカッションの後、各グループで出された意見について進行役が発表を行い、委員間で情報共有を行った。

グループ①で出された意見

	まちに開かれたアート ・最初に「アート」とは何か。中村橋に住んでいても、美術館へはあまり行
--	---

ったことがない。アートは「=芸術」という、神聖で、敷居の高いイメージがある。

- ・中村橋の「美術館」とは何か。神聖なイメージというより、「まち」に開かれていて、住民などが自由に出入りし、活動等に参加できる場所である。
- ・美術館の美術品以外にも、周辺のまちにアートのものを拡張していきたい。

美術館建物周辺を楽しい空間にする

- ・美術館の建物だけでなく、建物の外側も楽しい空間にしたい。
- ・参考として、ディズニーシーの植栽などは、細かくテーマを決めて植えられている。角川武蔵野ミュージアム（所沢）の建物の周りにはサクラが植えられており楽しめる。

商店街と美術館をつなぐ

- ・中村橋には魅力的なお店があり、アートなどで美術館とつなぎたい。
- ・商店街と美術館で、一日のんびり過ごせるようにしたい。
- ・来街者のための、バス停や自動車の駐車場などをつなげたい。

まちの安全性を確保

- ・まちで楽しむためには、まず安全であることが大事である。
- ・車椅子にやさしく安全なまちにしたい。

地域の身近な美術館

- ・図書館は静かな空間としつつ、美術館は地域の身近な施設として、皆が集まって賑わう場所にしたい。
- ・練馬の歴史が好きなので、石神井公園ふるさと文化館（地域歴史博物館）へはよく行く。ふるさと文化館は、歴史だけでなく、練馬をテーマとして、いろいろ工夫した面白い展示を行っており、気軽に入りやすい（敷居が低い）。美術館でも、練馬にゆかりのあるような情報発信をすることで、美術館へ行ってみようというきっかけにつながるとよいと思う。

子どもが楽しめる美術館

- ・小中学校で美術の授業は行っているが、近くに美術館があれば、小中学校から見学に行くなどの機会は増える。昔、子どもの頃は、上野の美術館まで観に行っていた。子どもの頃から身近に美術館があるというのは貴重な経験になる。
- ・子ども達が参加する美術に係るワークショップなどは行われているようであり、今後も子どもたちが参加できる催しなどを続けてほしい。

練馬らしさ（アニメ）

	<ul style="list-style-type: none"> ・練馬らしさといえば「アニメ」であり、練馬にはアニメ制作の職場などがある。アニメは、近年日本の文化になってきている。 ・アニメの切り口も取り入れるなど、練馬らしさを表現した身近な美術館になると良い。 <p>中村橋の色々な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中村橋には、美術関係以外にも色々な活動がある。 ・美術館や美術の森緑地で、美術館や図書館以外の地域活動などができそうであり、いろいろな人が来て活動をする場所になりそうである。 ・例えば、陶芸などの工房体験など。 <p>建て替わる美術案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の新しい建物については、パースだけではイメージしにくいいため、模型を見たい。
--	---

グループ②で出された意見

	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションでは、主に5つの提案が出された。 <p>提案1 商店街アート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「商店街アート」を提案する。 ・まず商店街の現状について。商店会主催の中村橋阿波踊りの開催や、沿道には街路灯やニャンピーが設置され、ハリーポッターのフラッグが掲げている。駅前のギャラリーを備えたカフェなど隠れたアートの店などがある。 ・商店会の街路灯はアート性を感じられる部分である。電柱については無電柱化したいが難しい状況であるため、「電柱アート」で対応する。これらの取組みについて電力会社に協力してもらえるとよいと思う。 ・夜間に閉める各店のシャッターを、カラフルなシャッターアートとする。 ・店内で眠っているお宝的なものを、沿道側に飾ってもらう。 ・まちなかの架空の電線はマイナスイメージであるが、プラス要因に変えていきたい。例えば、美術館に“電線アート”的なものを展示するなど。 ・周辺の駐車場部分などへもアートを広げていきたい。 <p>提案2 駅アート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「駅アート」を提案する。 ・駅前の現状については、イベントなどを行っている駅南口広場がある。 ・全体の統一感が大事であり、いくつかの要素によりハーモニーするような、アートディレクション（美術表現、芸術表現をもちいた総合演出を手がける職務）を行う。中村橋駅に来た人に、アートを感じさせる空間としたい。
--	---

- ・取組については鉄道会社に協力してもらえると良い。中村橋駅が全国から注目を受けることで来街者が増えれば、鉄道会社にとって電車賃などによる収入増が見込めそうである。
- ・駅構内や駅南口広場などを対象にアートのことを行いたい。
- ・駅南口広場は、イベントを行いやすい空間とし、アート作品を置きつつ広告物などは調和させたい。
- ・駅構内は、絵画などを飾り、広告やシャッターなどは画板のようなアートを感じられるようにしたい。
- ・高架下のコンクリートの柱は、色などを塗り彩らせたい。

提案3 子ども回遊アート

- ・「子ども回遊アート」を提案する。キーワードは“子どもがアートで遊ぶ”。
- ・中村橋周辺は子どもたちが多く、遊びやすい環境づくりが求められている。
- ・中村橋のイベントといえば中村橋阿波踊りなどであるが、子どもたちもこのまちの主演である。
- ・回遊するイベント企画や学校行事などを行う。例えば、中村橋らしい回遊ツアーや、子どもたちが回遊できるアートイベントなど。
- ・回遊ルート上にある、小学校や高架下の見せ方が大事である。一部機能が移転する中村橋区民センターもアートが感じられるようにしたい。都営住宅の公園部分についても、ゆくゆくは協力してもらいたい。まずは行政側から仕掛けてほしい。

提案4 お宝マップづくり

- ・まちのお宝を探し出して、「お宝マップ」をつくる。
- ・まずは、商店街のお店などに埋もれているお宝を探し出し、「お宝マップ」を作成する。
- ・「お宝マップ」には、まちなかの楽しく立ち寄れる場所や新しいプロジェクトなどもマッピングして、アップデートをしていく。

提案5 「中村」さん・「村橋」さんの日

- ・「中村橋」の日をつくる。
- ・楽しいまちを目指すことで、アートが感じられるようにしたい。
- ・アーティストで有る無いに関係なく、地域の「中村」さんと「村橋」さんが、何かの機会と一緒にイベント等を行うようにし、ゆくゆくは全国から「中村」さんと「村橋」さんが中村橋に集まるようにしていく。これも現代アートの一つだと思う。

グループ③で出された意見

アートとは

- ・最初に「アート」とはどのようなものか。似た言葉には「美術」、「芸術」などあるが、芸術が「伝統的」「格式的」といったアカデミックであるのに対し、「アート」という言葉には“タガをしめない”で、皆で自由に考えるという効果がある。また、「アート」は人によって感じ方が変わるものである。
- ・「アート」の概念は広く、デザインや建築や構造物の装飾などを含む。中村橋阿波踊りもアートである。

商店街アートのアイデア

- ・商店街も、新しくなる美術館に負けないよう盛り上げていきたい。商店街の店々に入ったらアートがあり、歩けばアートがあるようにしたい。
- ・実際、道路部分へのアートの設置や、新たな舗装整備や無電柱化は難しいと思われる。実現が可能な対応は、色などを変えることでアートの雰囲気をつくるなどが考えられる。
- ・商店街で出来ることは、街路灯の装飾（ラッピング）、各店内にアートレプリカを飾るなどが考えられる。
- ・駅南口広場でもアートを感じられるようにしたい。生け垣などの部分にモニメントなどを設置して、アートのなつくりをしたい。

アートの映えるまちづくり

- ・アートが映える環境とするために、まち全体を綺麗に清潔で感じの良いまちにしていきたい。例えば、お店や案内板を綺麗にするなど。
- ・“是非見てみたい”と思わせるまちにしたい。
- ・参考として、ローマの建物は、表装は古い街並みを残しているが、内側は近代的で新しい仕様である。
- ・例えば、現実的に難しいかもしれないが、中杉通り沿道の店舗の街並みを、江戸時代風に全て統一するなど。現実的には、中杉通りの舗装をカラフルにして、街路灯をガス灯風にするなどが考えられる。

アーティストなどの活動の場

- ・地域の若い作家やアーティストが活動する場を、見えるようにしたい。
- ・芸大生や作家さん達を、中村橋に住んでもらえるようにしたい。
- ・子どもが、商店街の廃材など使って工作できる場所があるとよい。

「アートを感じられるまち」によるメリット

- ・「アートを感じられるまち」になれば、どのような良いことがあるのか。
- ・例えば、来街者が増え、屋外でのキッチンカーや新たな飲食店が出店し、さらにまちの中に人が増える。
- ・美術の森緑地や駅南口広場などで、人々が何か飲みながらアートについて

	<p>語り合うような風景が生まれると思われる。</p> <p>「アートを感じる」と「活気を感じる」ことについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アートを感じる」ということは、「活気を感じる」と同じような事象といえそうである。アートなどで魅力のあるまちには、人が集まり活気が溢れると思われる。 ・「活気」を生むような視点でも、今後検討を進めていきたい。
--	---

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、「アートを感じられるまち」についてディスカッションしていただいた。 ・ハード的なまち並み整備だけでなく、ソフト的なまちの活動などが大事であると感じた。 ・本日いただいた意見などをふまえて、「美術のまち構想」の策定へつなげていきたい。
-----	---

3. その他

副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・春夏秋冬の年4回、美術館の展覧会に合わせて、美術の森緑地やまちなかで楽しめるワークショップシリーズを開催する予定である。 ・例えば、春と夏は、牧野富太郎さんにちなんで、植物を使ったワークショップを開催する。最終回の冬（1月20日（土）と21日（日））は、ワークショップの集大成として、美術の森緑地や美術館のロビーで、アートマルシェ・青空市を開催する。 ・皆さんに参加していただけるイベントを考えている。映像作品をアーティストの方が子どもたちと一緒に作ったり、富士見中学校高等学校と連携して作成した映像作品の上演などを考えている。アートマルシェ・青空市では、美術の森緑地での出店などを呼びかけしている。 ・具体的な活動が決まりしだい、情報提供させていただき、皆さんにもご協力いただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は、来月6月、第3回駅周辺まちづくり部会を6月23日（金）に開催予定である。場所は、サンライフ練馬ではなく、貫井地区区民館（中村橋区民センター内）で行う。

以上